

ご自由にご覧ください

まちの 井戸端会議

道路の整備優先度や
整備プログラムの考え方について、
ご意見をお聴かせください。



調布市都市整備部まちづくり推進課
令和7年10月



みちの井戸端会議とは？



調布市は、令和6年度から、市内の都市計画道路や生活道路を一体的に計画した「調布市道路網計画」の改定に向けて検討を進めています。

この度、道路の整備優先度や整備プログラムの考え方について、皆さんのご意見をお聴きし、令和8年春頃に計画を改定する予定です。

「**みちの井戸端会議**」は、市民の皆さんのご意見をお聴きする場です。



「調布市道路網計画」とは？

- 調布市道路網計画（平成28年3月策定）は、都市計画道路を対象とした「**広域道路網計画**」と、生活道路を対象とした「**地区内道路網計画**」により構成します。
- それぞれの計画に、調布市の将来都市像の実現に必要な「目指すべき道路網」、整備優先度を明示した「道路整備プログラム」を設けました。
- 広域道路整備プログラムの優先整備路線（※）に関しては、多くの路線が事業中または事業準備中です。
- 地区内道路整備プログラムに関しては、多くの路線が事業中であり、整備が完了した路線もあります。

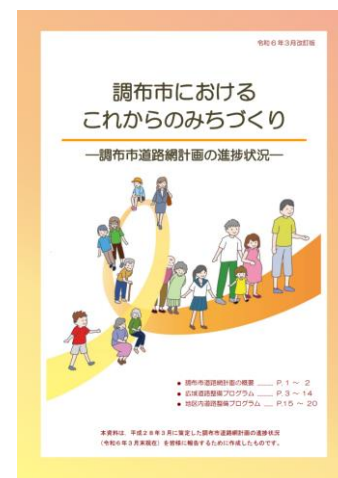
※H28年度～R7年度の10年間で、整備または着手する路線



調布市道路網計画



「調布市におけるこれからのみちづくり
調布市道路網計画」パンフレット

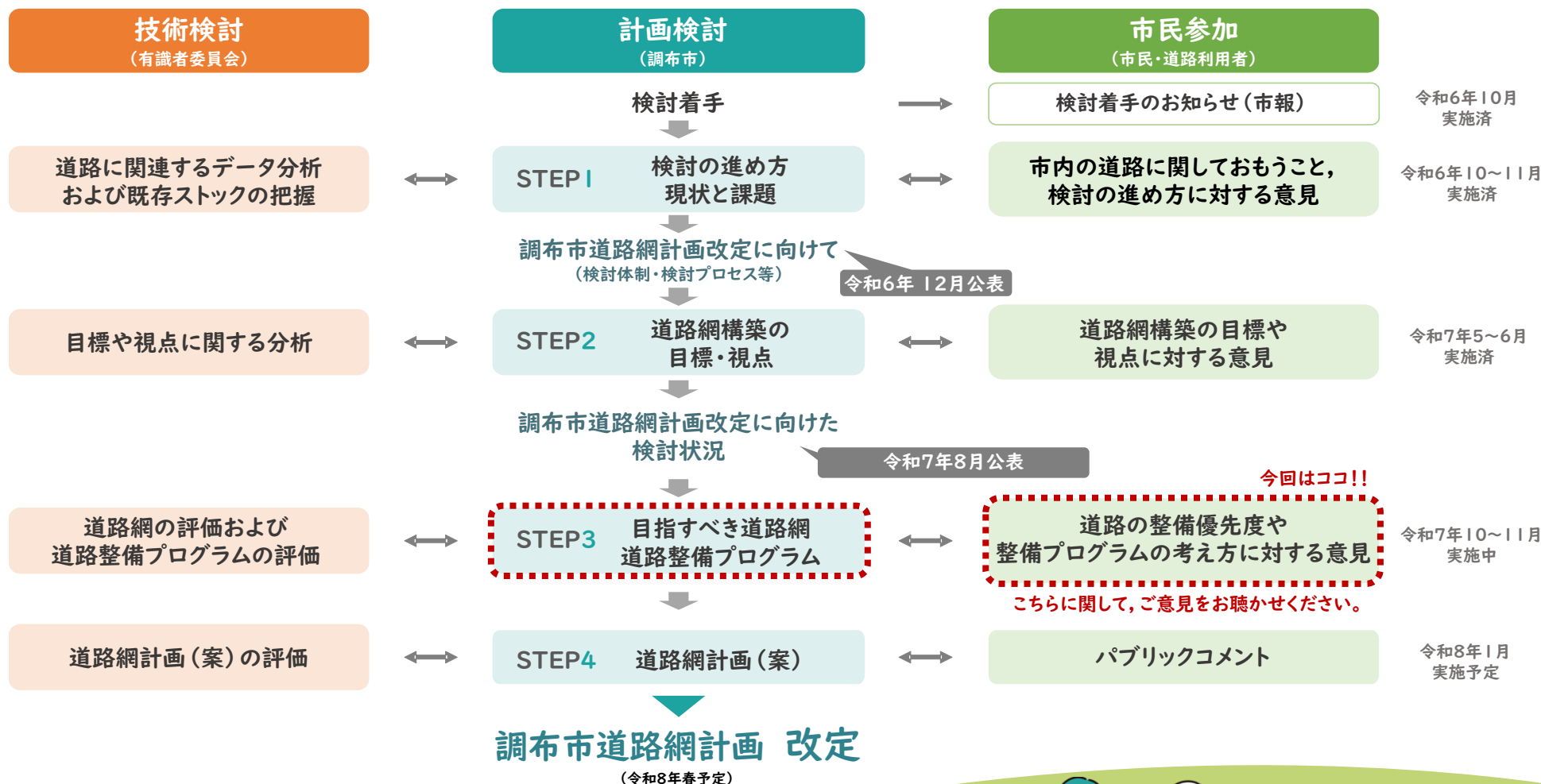


「調布市におけるこれからのみちづくり
調布市道路網計画の進捗状況」パンフレット



検討の進め方について

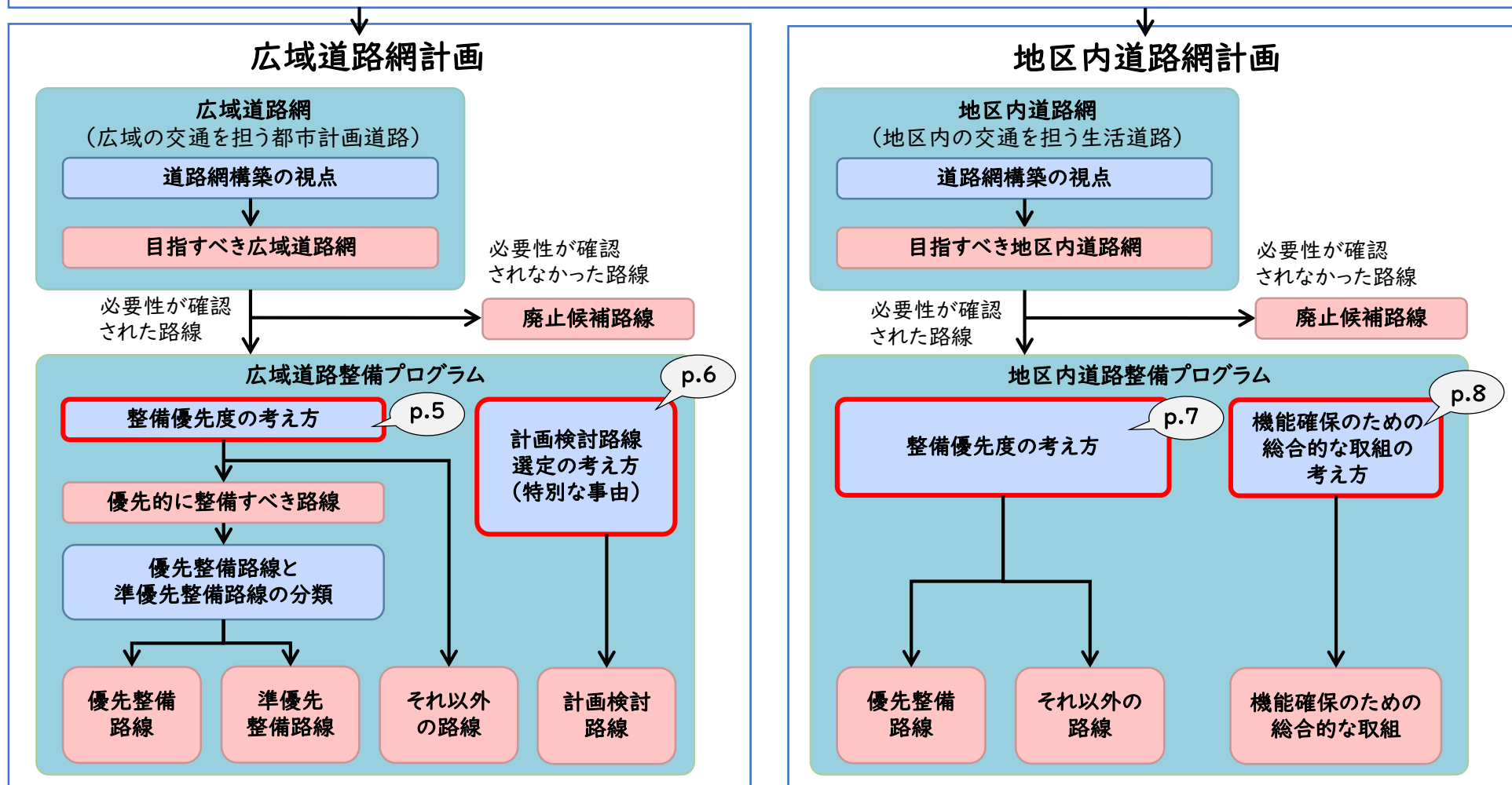
- 道路網計画の改定に向けて、引き続き、「計画検討」、「技術検討」、「市民参加」を並行して実施しながら検討を進めます。



道路整備プログラムの構成

- 道路整備プログラムは、必要性が確認された各路線を対象に、整備の優先度等を明示したものです。

道路網構築の目標



整備優先度の考え方（広域道路）

- 道路網構築の目標を踏まえ、整備優先度の考え方を設定します。
- その考え方に基づき、「優先的に整備すべき路線」を選定します。
- 「優先的に整備すべき路線」を令和8年度から22年度までの15年間で事業着手または整備する「優先整備路線」、優先整備路線の次に事業着手または整備する「準優先整備路線」に分類します。

①円滑な道路ネットワークの構築

快適・便利
安全 効率性

部分的に未整備となっている区間を整備することで、早期に整備効果を発現します。

②関連する都市基盤整備事業との連携

快適・便利
安全 効率性

東部地区における交通環境の改善に向けた取組などと連携を図り、整備効果の大幅な向上を図ります。

③災害に強い都市基盤の整備

防災
減災

地域の防災上重要な機能を果たす路線を整備することで、災害に強いまちを形成します。

④快適でより便利なまちの形成

快適・便利
安全 環境
住環境

バス路線や駅周辺駐輪場へのアクセス路線、住民発意によるまちづくりと関連する路線、緑の連結軸の形成に寄与する路線を整備することで、快適でより便利なまちを形成します。

⑤安全な通行空間の確保

快適・便利
安全 環境
住環境

駅周辺のバリアフリー化や、通学路に歩道を設置することで、安全な歩行空間の確保を図ります。

⑥地域特性を活かした都市空間の形成

快適・便利
安全 活性化

駅周辺における交通の利便性の向上を図るとともに、深大寺地区へのアクセス性向上を図ります。

※赤字下線部分は、現道路網計画（H28.3策定）から更新した項目



計画検討路線選定の考え方（広域道路）

- 広域道路網として必要性が確認された路線のうち、特別な事由により、道路の線形、幅員、位置、構造の変更など都市計画の内容について検討する必要がある路線を「計画検討路線」として位置付けます。

①現地の状況により、検討が必要な路線

計画地周辺の地形条件や自然環境等により、今後、事業化を見据えて、構造、幅員等の検討が必要な路線を選定します。

③隣接市区と調整が必要な路線

隣接市区と接続する都市計画道路で、都市計画の不整合が生じている路線や隣接市区と調整が必要な路線を選定します。

②計画線上に国指定史跡があり、かつ史跡の復元等にあたり検討が必要な路線

都市計画道路と国指定史跡との重複により、史跡に配慮した検討が必要な路線を選定します。

④既存道路を活用し、都市計画道路の機能を代替できる可能性のある路線

都市計画道路と並行する既存道路の機能の向上を図ることで、当該道路が都市計画道路の持つ機能を代替できる可能性がある路線を選定します。



整備優先度の考え方（地区内道路）

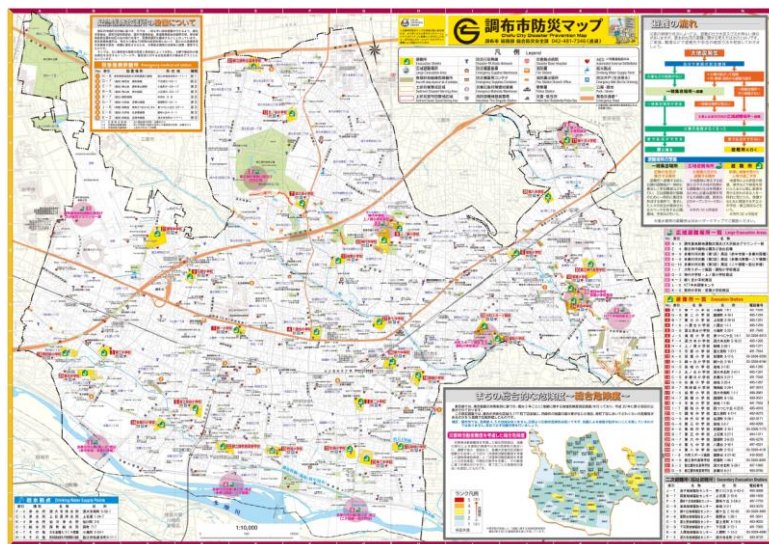
- 道路網構築の目標を踏まえ、整備優先度の考え方を設定します。
- その整備優先度の考え方に基づき、令和8年度から22年度までの15年間で事業着手または整備する「優先整備路線」を選定します。

①震災や風水害時の避難に資する路線

快適・便利
安全

防災
減災

都市計画道路または都道と広域避難場所・避難所を結ぶ路線を整備することで、防災性の向上を図ります。



出典：調布市防災マップ（令和2年12月改定）

②都市基盤整備事業の関連路線

快適・便利
安全

効率性

学校施設の建替えなどと連動して効果的な整備を進めることで、歩行者の安全性向上を図ります。

③通学路の安全性向上に資する路線

快適・便利
安全

校門に面している路線のうち、見通しが悪い交差点がある路線などを整備することで、児童が安全に通行できる歩行空間の確保を図ります。

※赤字下線部分は、現道路網計画（H28.3策定）から更新した項目



機能確保のための総合的な取組の考え方（地区内道路）

- ・ 地区内道路網として必要性が確認された路線においては、道路空間の確保だけでなく、局所的改良や交通安全の視点も含めた機能確保のための総合的な取組を位置付けます。
- ・ 部分的な拡幅や既存道路の有効活用（カラー舗装や物理的デバイスの設置等）などにより、以下に示す機能の確保ができないか等を検討します。

①ボトルネックとなっている区間の解消

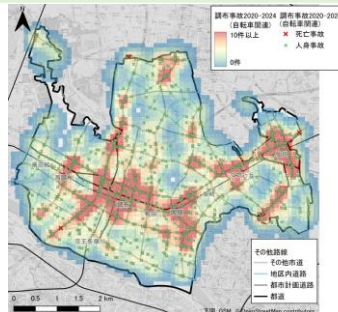
前後区間が整備済となっている区間について、拡幅整備等を実施することで、アクセス性の向上や事故の削減を図ります。



調布駅南側の区間（No16）、市道C20号線（No18）、市道E310号線（No20）

②歩行者・自転車の交通事故が多い箇所の安全対策

交通事故が多い箇所について、短期的に実施可能な方策を検討し、安全性の向上を図ります。



自転車の事故分布

出典：警察庁「交通事故統計情報のオープンデータ（令和6年度）」より作成

③バス待ち環境の改善

バスの運行本数が多い路線のうち、バス待ち環境が整備されていない路線について、短期的に実施可能な方策を検討し、安全性の向上を図ります。



【これまでの取組】

現行計画策定以降の取組として、ボトルネック箇所の解消、小学校周辺の安全対策を実施してきました。



ボトルネック箇所の解消例

小学校周辺の安全対策の例

※赤字下線部分は、現道路網計画（H28.3策定）から更新した項目



